おわりに

藤原　伸介

今回の企画では，原稿を書いていただいた先生方に，いくつかアンケートをお願いしていたので，その内容も併せて紹介したいと思います（次ページ参照）．

企業に対する就職活動では，求人情報を集めるところから始まりますが，研究者の場合，多くは科学技術振興機構の専用サイト（JRECIN）と学会誌から情報を得ます．就職活動でエントリーシートの通過に相当するプロセスが，研究者ポストでは書類選考の通過にあたります．研究ポストの場合，二桁数の書類応募が一般的です．面接にたどり着くのも現実的には至難の技で，面接の機会を得ても採用に至らない場合が多くあります．研究分野のマッチングも重要ですが，教育重視のポストなのか，研究重視のポストなのか意識して，十分に調べて準備した方が良いようです．いずれにせよ，書類を応募しない限り，ラボ立ち上げはないので，条件が合う募集があれば積極的に挑戦することが肝要かと思えます．

アンケートでは最終面接から採用通知を受け取るまでは，1か月から2か月という回答をいただきましたが，面接直後に電話で意思確認をされたところもあります．面接から確定までは，落ち着かない期間ですが，採用する側も頭を抱えているはずです．

今回，ご登場いただいた先生方はいずれも赴任前に，新しい職場の教職員，前任者と入念な打ち合わせが行われていました．研究室の設計を含めて手厚いサポートをいただいたようです．特にゴミの廃棄や試薬の管理に関しては，着任後ただちに説明が行われており，各大学における危機管理が徹底していることがうかがえます．ただし，着任大学からのスタートアップ支援は必ずしも充分ではなく，やはり自己資金（外部からの研究費）を意識的に獲得しておくことは重要です．大きな研究グループで，研究を行っていた方は，独立すると過去に所属していたラボのボスの偉大さに気づくことがあります．研究のアイデアがあっても研究資金がなければ実行に移せず，悶々とした日々を送らなければならなくなってしまいます．大きな研究室に属していても，日頃から独立を考え，資金調達を意識すべきでしょう．一点，気をつけないといけないのは，科研費のように移管の可能な予算は良いのですが，研究費によっては，移管できない場合があることです．

今回はすべての先生が着任後，ただちに学生が配属されています．着任者の研究室が機能するよう，大学が配慮されたように感じます．研究室運営に関しては，いずれの先生も工夫を凝らしているようです．特にコアタイムを設定したり，毎日の輪読会を行ったり，学生が研究室と疎遠にならないような方策を講じています．大学によっては3年生から研究室配属を行うところもありました．大人数の学生を抱えての研究室運営はテーマ設定を含めて，大変な苦労と思われます．今回，留学生を受け入れている方はいませんでしたが，留学生がいる場合，意思疎通を含め，どのような工夫をされているのか興味が持たれます．昨今は，多くの大学でグローバル化が進み，英語コースを持つ大学も増えています．大きな研究室では，日本人学生と留学生が協力しながら研究に取り組む風景は珍しくなくなりました．独立したばかりの若手研究者は，ラボ運営のグローバル化をどのような形で進めているのでしょうか．留学生が日本語を話すのではなく，日本人学生が英語を話し，意思疎通を行えるようになるとグローバル化も加速するように感じます．

今回の企画では，日本でラボを立ち上げたばかりの若手研究者にご登場いただきました．機会があれば，海外で研究室を立ち上げた方にも体験談をうかがいたいと思います．最近は欧米に限らず，中国や東南アジア，中東で研究室を立ち上げた方もいます．続編として「ラボ立ち上げました（海外編）」が企画されることを期待したいと思います．

さて，バイオ系のキャリアデザイン特別企画第2弾として，次号では「バイオ系の海外就職指南」が企画されています．ここでは企業の研究所で生き抜く様が語られています．今後，日本人学生がグローバルな舞台で活躍するための第一歩のヒントになれば嬉しく思います．

著者紹介　関西学院大学理工学部（教授）　E-mail: fujiwara-s@kwansei.ac.jp

「ラボ立ち上げました」
—そこが知りたい！　あれこれインタビュー

【フェーズ 1：PI 赴任前】

◆研究室の名前はどのように決めましたか？その時，何を考慮しましたか？

ほぼ「自身で決定」．考慮した点としては，

・自分の研究や教育のコアを伝えられるように
・高校生にもわかる名前を重視

【フェーズ 2：研究室の状況】

◆ラボはどのようなレイアウトですか？

「学生と同室」「教員・学生・実験室と別」など．

◆初年度　卒研生の配属は何人？

・2 ～ 6 人

◆ラボセミナーはどのような形で開催していますか？

・4 年生一人年 2 回，院生 3 回，ランチョン形式
・週一回一人当たり約 1 時間
・研究発表は一人 30 分 / 月．別に輪読を月 1 回
・週 1 回
・一人当たり 3 時間，一人当たり 1 年 2 回，週 1 回
・毎日「朝輪」と毎週「ゼミ」

◆コアタイムは設定していますか？

「はい」：

・10 時～ 16 時
・9 時 30 分～ 17 時 00 分
・学部生はフレックス，大学院生は 10 時半から
・はい．ただ守らせることより，ルールの背景にある教育上の意図を考えさせる．

「いいえ」：

・毎週ゼミで発表できれば OK，そうできるよう自分で時間管理することも重要．

【フェーズ 3：講義の準備】

◆講義資料は前任者から引き継がれた？

「はい」「いいえ」半々の回答

◆初年度の担当講義数と担当講義名は？

・3 ～ 5 コマ＋学生実験などなど

【フェーズ 4：学生配属】

◆卒研生配属のリクルートのための工夫は？

・説明会は熱く語ります
・学んでいる技術を語れるようにする
・2 年生の講義で研究の面白さを雑談で話す
・研究内容のプレゼンを一生懸命やりました

◆研究テーマ：1 人 1 テーマ制？複数人で一テーマのチーム制？

「1 人 1 テーマ」がほとんど．

◆ラボに何人の学生が所属していますか？

・10 名（B4：3 人，M1：2 人，M2：3 人，D1：1 人，D2：1 人，民間共同研究員（常駐）1 名）
・16 人（B4：6 人，M1：4 人，M2：6 人）
・B4：5–6 人，M：2–3 人 B3 後期配属
・B4：7 人，M1：0 人
・B3：7 人，B4：2 人，M1：1 人，D1：1 人
・毎年 B4 が 2, 3 人入り, 8 割が修士卒, 2 割が博士進学, スタッフは私がひとりで例年 10 名ほど

★以上の内容は，執筆者から回答があったアンケート結果を抜粋して掲載しています．